



Piano : Misa Hasegawa



Violin : Luz Leskowitz



Cello : Uwe Hirth-Schmidt

Salzburger Schlosskonzerte In Japan

3月3日(日) 2024

OPEN 14:00 START 14:30

もりおか町家物語館 浜藤ホール

岩手県盛岡市鉦屋町10-8

TEL : 019-654-2911



PROGRAM

ベートーヴェン：ピアノ三重奏『街の歌』Op.11

クライスラー：『プレギエラ』

ラフマニフピアノ協奏曲 第2番 より

プロツホ：ユダヤ人の生活より 第1曲『祈り』

リスト：『愛の夢』（ピアノ三重奏版）

メンデルスゾーン：ピアノ三重奏 二短調 Op.49

TICKET

一般4000円 / 学生2000円 (当日500円プラス)

チケットぴあ：Pコード 261077 <https://pia.jp/>
*全国のセブンイレブン、ファミリーマート、インターネットでの発券が可能。

電話予約：090-1959-9219 (長谷川)

090-1068-8083 (黒石野歯科 武田)

メール予約：salzburger.konzerte.japan@ymail.ne.jp

主催：ザルツブルガー・シュロスコンツェルト・ジャパン事務局

ご予約・お問合せ

090-1959-9219 (10:00-20:00)
salzburger.konzerte.japan@ymail.ne.jp

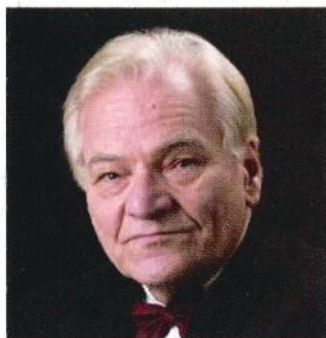
協力 黒石野歯科
盛岡市黒石野2-13-44

<https://pia.jp/>



Profile

Violin

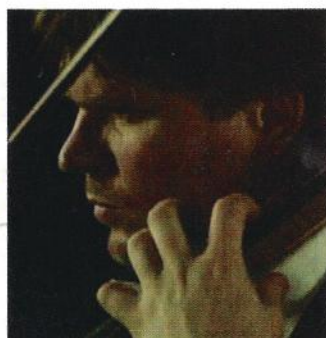


ルッツ・レスコヴィッツ

6歳よりバイオリンを始める。13歳でウーン音楽アカデミーに入学し、ヴァン・ブシホダ、リカルド・オドノブゾフに師事。その後、モーツァルト音楽大学にてヴィオラをエルンスト・ウォルフフィッシュに師事。卒業後、世代で最も優れたヴァイオリニストとしてユーディ・メニューインに招かれ、ロンドンのメニューイン音楽院にて教鞭をとる。20歳でロンドンのエリザベスホール、ウイグモアホール、ニューヨークのカーネギーホール等にてデビューコンサートを行い、その後世界各地で演奏活動を行っている。

また1970年にドイツで室内楽音楽祭、ハルツブルグ音楽祭を立ち上げ、その後オーストリア、ドイツ、イタリア、日本などで15個の音楽祭を設立した。1979年に自らが主宰する室内楽団、ザルツブルグ・ゾリステンを設立。この楽団のデビューは、ザルツブルグ祭にてのメニューインとの協演で、現在は世界中で定期公演を行っている。さらに1991年から2015年までは、ミラベル宮殿におけるシュロスコンサートのオーナー兼音楽総監督として精力的に活動。共演者にはパウル・バドゥラ＝スコダ、ウイヘルム・ケンプ、イングリッド・ヘブラー、イェルク・デームス、ユーディ・メニューイン、イゴール・オイストラフ、ノルベルト・プライニン、ダビッド・ゲリンガス、ハインリヒ・シフ、ムステイラフ・ロストロポーヴィッチ、ヘルマン・パウマン、カール・リヒター、ミカラ・ペトリ、シャロン・ベザリー、ホーカン・ハーデンベルガー、エリー・アメリック、バルトク四重奏団、ラーク四重奏団、ヴォーチェス四重奏団等数多くの名演奏家が名を連ねている。演奏には1707年製造ストラディバリウス『ブシホダ』を使用。

Cello



ウーヴァ・ヒルス＝シュミット

ウーヴァ・ヒルス＝シュミットは、1972年ストラスブルで生まれた。彼の音楽スタイルは、確固たるスタイルがある演奏ではなく、その瞬間の空気を感じ取り、室内楽に溶け込む、“七変化する音楽”をモットーとしている。ゆえに、バロックや、多くのクラシック音楽、そしてジャズや、その他のあらゆる音楽を融合させたものを、彼の演奏から感じることができる。ソリストとしては、著名な教授のもと、練習をすることへの孤独に苛まれつつも、数々のコンクールで入賞を果たし、有名なコンサートホールなどでの演奏活動を行っていた。ベルリン芸術大学へと進学し、室内楽と出会い、音楽が自分の天性であることを感じ、その後、ジャック・ティボー三重奏団、ザルツブルグ・ゾリステン、ドレスデン・バッハ・ゾリステンなどに属し、多くの国々での演奏活動を行っている。様々な経験から、多くの編集やカットをした“作られた音楽”は、その良さを失いコンサートやライブ録音のように、演奏家と聴衆が共に音楽を感じる事こそが、真の音楽と考えている。これまでリリースしたCDはニューヨーク・タイムズを含め、世界各国で高い評価を受け、共演した著名な演奏家達からも、高い信頼を得ている。演奏楽器は1801年製Guiseppe Dall'Aglio。現在は、ヴァイオリニストの妻ミンジョン・カンと、ピアノを一日中練習しつつも、画家を目指す娘と三人で、ベルリンで暮らしている。

Piano



長谷川 美沙

3歳よりクラシックピアノを始め、4歳でイェルク・デームスのレッスンを受講し、その後、来日毎にレッスンを受講。堺音楽コンクール、神戸国際音楽コンクール、史上最年少での全日本ソリストコンテスト入賞、アジア国際音楽コンサートにて最高位受賞など、数々のオーディションに合格し、コンサート出演やオーケストラとの協演を果たす。15歳より毎年米国にてピアノコンサートを開催し、全米各地で注目を集め、米国ユタ州立大学音楽部ピアノ演奏学科より特待入学許可を得る。2013年にはデームス氏の薦めでルッツ・レスコヴィッツ氏と初共演し、翌年にデュオ・コンサートを開催。2015年にはザルツブルグ名門コンサートシリーズのマスター・コンサートのピアニストをつとめ、同年にはドイツクリスマスコンサートなどに招聘された。2017年のレリッゲン（ドイツ）音楽祭では、ジェレミ・メニューインの代役をつとめ、好評を博し、その後、主にドイツ中心にヨーロッパ各地の音楽祭から招聘を受け、ソリスト、室内楽奏者として活躍中。

現在はレスコヴィッツ氏が最も信頼するピアニストとしてデュオを組み、日本のみならず、ドイツ、オーストリアなどで活躍。共演者には、レスコヴィッツ氏他、ダヴィッド・ゲリンガス、ウラデミール・メンデルスゾーン、アイルン・ブリッチン、ソレン・ペダシー、インレマー・ブランテリド、フェドール・グリゴリエフ、ウーヴァ・ヒルス＝シュミット、小林美恵、林裕、松実健太など。また、レスコヴィッツ氏監修のもと、ザルツブルグ・シュロスコンツェルト・イン・ジャパンの運営を行っている。2017年には、レスコヴィッツ氏との『HARMONY OF THE DUO』のCDを、2018年6月にはアインザッツレコードより、ピアノソロCD「シューマン」を発売。ソロCDはレコード芸術にて準特選版に推薦されている。これまでにピアノをイェルク・デームス、ハリナ・C・ステファンスカ、スザン・ダルマイヤー、池田明子、和田克、山本瑛子、加藤崇子の各氏に師事。

ザルツブルグ・シュロスコンツェルトとは

2015年末、61年続いたザルツブルグの伝統の名門コンサートが不況のあおりで幕を下ろしました。1954年8月に第1回コンサートを開催してから年200回以上のコンサートを開催し続けたザルツブルグ ミラベル宮殿 大理石の間コンサートシリーズ-ザルツブルグ・シュロスコンツェルト。ザルツブルグ音楽祭の期間中でも開催を許された唯一のこのコンサートは、第4回には14歳のダニエル・バレンボイムがザルツブルグデビューコンサートを行い、イングリッド・ヘブラー、オイストラフ、エディット・パイナマン、イェルク・デームス、バドゥラ＝スコダ、ウィーンフィルやベルリンフィル管弦楽団員なども名演を披露してきました。まさに選ばれし者のみが演奏できる老舗の名門コンサートでした。ザルツブルグ市はモーツァルトの住居（*1）と同様、本物の存続を望まず、経済利益だけを追い求め、古き良き伝統を守ることなく、このコンサートシリーズにも支援を当初よりしてきませんでした。コンサートオーナー兼音楽監督であったルッツ・レスコヴィッツ氏は、それでも、薫り高き伝統の音楽を守るため、本物の音楽を届けるため、そして未来に羽ばたく若い演奏家への場所の提供を願ひ、自分の私財を売却し、このコンサートの運営を行ってきました。2013年、イェルク・デームス氏の紹介でレスコヴィッツ氏と長谷川が出会い、2015年に“セーブ・シュロスコンツェルト”を立ち上げ、コンサート存続のため様々な企画を行い、運営を助けてきましたが、そのかいなく、2015.12.31をもって、61年の伝統高き名門コンサートは終わりの時を告げました。本物の音楽を届けたい、伝統の音楽を守りたい、若手の育成の場をというレスコヴィッツ氏の願ひは強く、2016年日本でこのコンサートシリーズが復活しました。これまでに、東京、京都、帯広、盛岡、興福寺（奈良）などで開催。

*1) 現在「モーツァルトの住居」として知られる建物は、1944年10月、第2次世界大戦の空襲によって破壊されました。戦争後、ザルツブルクモーツァルト財団は、一般人の所有になっているこの建物を取り戻し、修復に向け動き出しました。しかしザルツブルグ市が、この「モーツァルトの住居」修復に公的支援をすることはなく、1996年日本の保険会社「第一生命保険」がスポンサーとなり、修復されました。現在は、多くの観光客がこの住居を訪れています。